

2 ごみの減^{げんりょう}量^{しげん}と資源のリサイクル

(1) わたしたちのくらしとごみ

わたしたちは、ふだんのくらしの中で、いろいろなごみを出しています。みなさんの家や学校などから出るごみの量^{りょう}は、鹿沼市だけでもなんと1日約77トン！これは、普通乗用車のおよそ51台分の重さの量になります。とてもたくさんのごみが出ていることがわかりますね。



でも、こんなにたくさんのごみが家の中や、町の中にあつたら困^{こま}りますね。

自然環^{かんきょう}境を守りつつ、清潔^{せいけつ}な町にくらすためには、ごみを正しく処理^{しゅり}することが大切です。

そこで、鹿沼市では、ごみの処理を「環^{かんきょう}境クリーンセンター」と「リサイクルセンター・新リサイクルセンター」で^{おこな}っています。



環^{かんきょう}境クリーンセンター

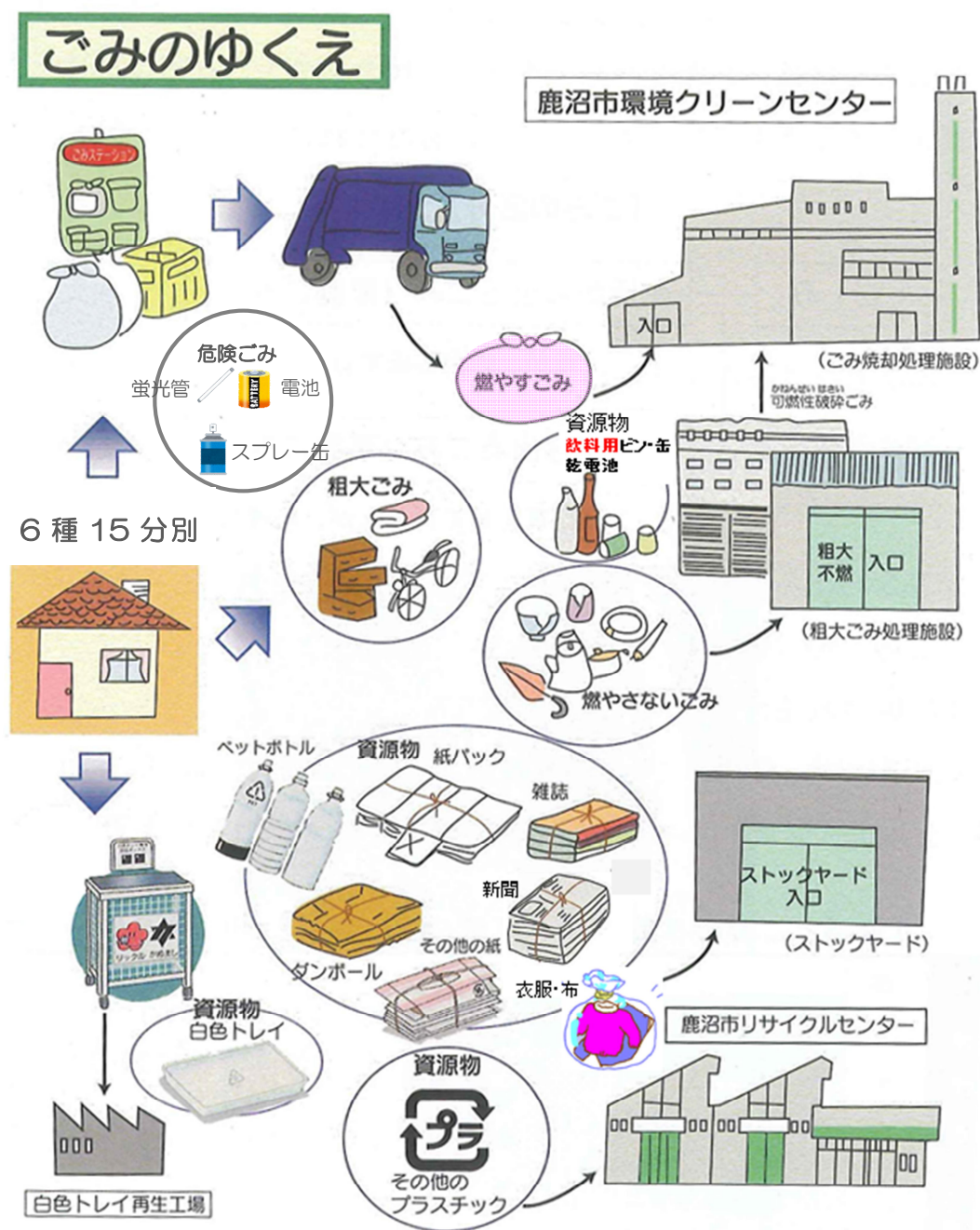


リサイクルセンター

みなさんの家や学校などから出たごみのほとんどは、この大きな工場に運ばれてきて、入ってはいけないものを人の手で取り除いた後（燃やさないごみ・その他のプラスチック・ペットボトル等）、機^き械^{かい}を使って細^{こま}かくしたり、燃^もやしたり、資^{しげんぶつ}源^{ぶつ}物を分別したりしています。資^{しげんぶつ}源^{ぶつ}物とは、新聞紙や飲み物のビン・缶など、リサイクルしてもう一度材料にできる物のことです。

環境クリーンセンターでは、ごみと資源物^{しげんぶつ}がどのように処理されているのか、次のページを見て考えてみましょう。

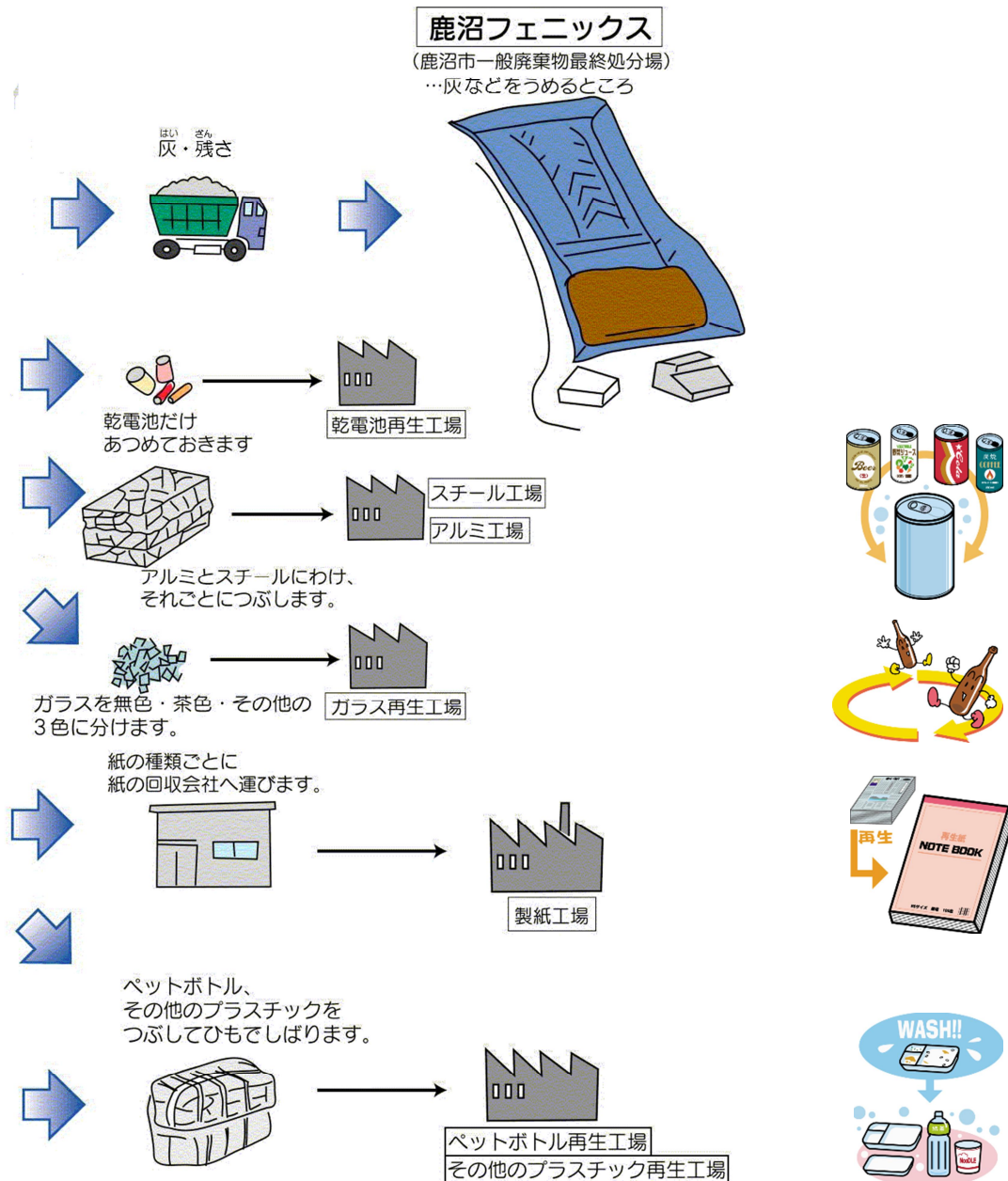
(2) ^{しげん}資源とごみのゆくえ



※現在、ペットボトルは「新リサイクルセンター」で処理されています。

ごみは、燃^もやしたり細^{こま}かくしたりすることで、量^{りょう}を減^へらせます。
燃^もやしたあとの灰^{はい}は、「鹿沼フェニックス」にうめられます。

しげんぶつ しゅるい
資源物は、種類ごとに選り出します。そして、つぶしたり、まとめたりして、リサイクルしやすいように処理されます。そして、別のリサイクル工場に運ばれて、新しい製品に生まれ変わります。



平成 20 年 10 月から分別している「衣服・布」は、ストックヤードに集められたあと、衣服は東南アジアの国などへ運ばれて、そのまま服として再利用されます。布は、工場の機械をふくぞうきんなどとして使われます。また、粗大ごみとして持ち込まれた羽毛ふとんなどの製品も選別して、羽毛のリサイクル施設へ送ったり、まだ使用できる自転車などを「ぶうめらん」で販売したりするなど、再利用につとめています。

(3) 鹿沼市の「資源とごみ」の量

①ごみの分別

前のページで見たように、ごみにはいろいろな種類があり、種類によって処分の方法がちがいます。そのため、ごみを捨てる時には、種類ごとにきちんと分けることが大切です。ごみを種類ごとに分けることを「分別」といいます。



ごみ分別アプリ「さんあ〜る」を使ってゴミ出しのルールを守ろう！

【資源とごみの6種15分別収集】

分け方	燃やすごみ	資源物										燃やさないごみ	危険ごみ	粗大ごみ	処理困難物
		飲料用缶	飲料用ビン	新聞	雑誌	段ボール	紙パック	その他の紙	衣服・布	ペットボトル	その他のプラスチック製容器包装	白色トレイ			
収集	週2回	週1回	月1回	月2回					週1回			—	月2回	月1回	—
出し方	指定ごみ袋 鹿沼市	コンテナ容器	コンテナ容器	ひもで 十文字しぼり				透明または 白色半透明の袋	コンテナ容器	透明または 白色半透明の袋	透明または 白色半透明の袋	拠点回収	コンテナ容器	コンテナ容器 戸別収集 ・直接搬入	戸別収集 ・直接搬入

②ごみの収集

家庭からごみステーションに出された資源物やごみは、ごみ収集車などが集めて、環境クリーンセンターやリサイクルセンターに運ばれます。

市内には、ごみステーションがおよそ 3000 か所あります。



ごみ収集車

③「資源とごみ」の量とリサイクル率

ごみの処分にはお金がかかるのを知っていますか？

1人の人が1か月で出すごみを処分するためには、なんと約1900円かかると言われています。

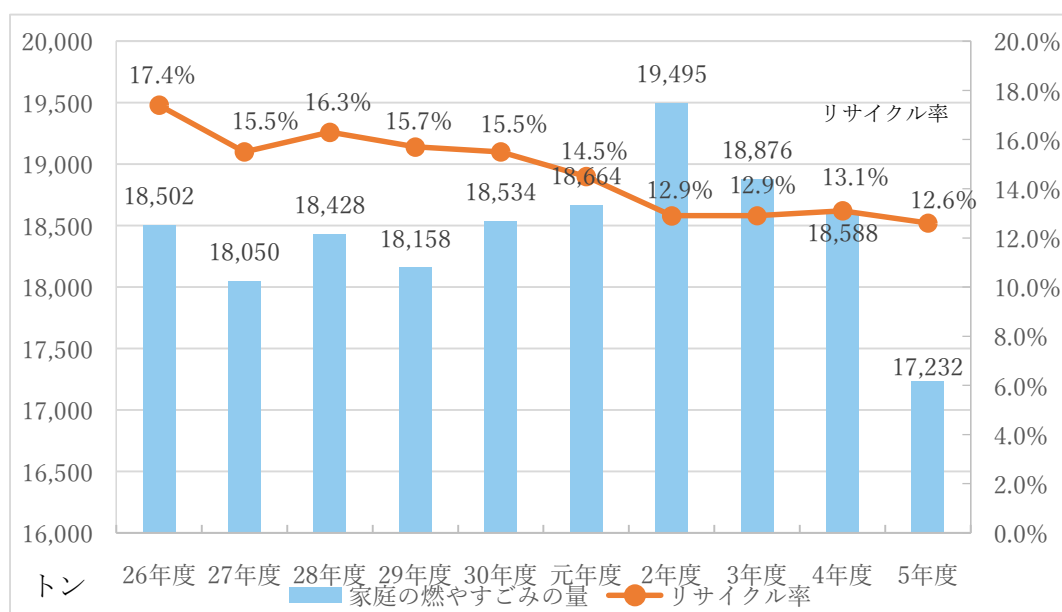
鹿沼市ではごみの量が年々増えていたため、少しでもごみの量を減らしてもらう必要がありました。



集められた燃やすごみ

そこで、燃やすごみを処理するのに「お金がかかる」という意識をもってもらい、ごみの分別にもっと取り組んでもらうために、平成18年10月から家庭の燃やすごみの有料化、令和4年10月から持ち込みごみの有料化がはじまりました。

有料化を行った結果、家庭の燃やすごみの量は一時的に大きく減りました。



「家庭の燃やすごみ」の量とリサイクル率

(4) 3 R を広げよう

① 限りある資源を守るために

わたしたちが生活するためには、食べ物や洋服、紙や電化製品、自動車など、いろいろなものがひつよう必要です。そして、それらのものを作るためには、金属や石油などいろいろな「資源」がひつよう必要です。

しかし、地球の資源には限りがあります。資源を使いすぎると、いつの日かなくなってしまうかもしれません。すると、ものが作れなくなって、いままでの生活ができなくなるかもしれません。

限りある資源を守るにはどうしたらいいのでしょうか？

② 資源を守る取り組み「3 R」ってなに？

3 R とは、①リデュース（ごみを減らすこと）、②リユース（くり返し使うこと）、③リサイクル（再生して利用すること）です。

みなさんの家でも「3 R」活動を広げていきましょう。



● くり返し使う

いらなくなったものは、人にあげたり、リサイクルショップに売ったりする。



● ごみを減らす

- 紙は分別して資源物に出す
- 商品の包み紙などの包装容器はできるだけ少なくする。
- 使い捨てのものは買わない
- つめかえできるもの（シャンプーなど）を使う



● 資源として再生利用する

- ごみはきちんと分別する。
- リサイクル製品を買う。
- 生ごみから堆肥を作る。

